



2022年3月期第2四半期

決算説明補足資料

2021年11月18日

株式会社アイ・ピー・エス

証券コード 4390

企業理念

OPEN DOOR

私たちは、いまだ誰も突破できていない障壁のある生活に密着した分野で、誰よりも先んじて事業機会を創造し、事業を展開し、産業構造を変え、あるべき社会を実現してまいります。

当社グループでは、フィリピンにおいて、最先端の通信技術を活用した通信サービスを提供することにより、フィリピン経済の発展に貢献するため、積極的な投資を行い、事業の拡大を図っております。



四半期決算概要

売上高：4,076百万円 営業利益：828百万円

事業状況

自社C2C回線などの提供の拡大し、海外通信事業が増収に、国内通信事業も好調に推移し、医療・美容事業においてもレーシック施術が回復し、増収・増益。

今期業績予想

売上高：11,100百万円 営業利益：2,400百万円

※変更なし

1 | 2022年3月期第2四半期 決算概要

【2022年3月期第2四半期 連結実績】

(単位：百万円)

	第2四半期				第2四半期累計			
	2021年3月期	2022年3月期	前年同期比	%	2021年3月期	2022年3月期	前年同期比	%
売上高	1,559	2,115	556	35.7%	3,373	4,076	703	20.9%
営業利益	299	458	158	53.1%	624	828	204	32.7%
経常利益	283	439	155	54.6%	570	820	250	43.9%
親会社株主に帰属する当期純利益	198	300	101	50.8%	392	518	125	32.1%

2022年3月期第2四半期連結累計期間 実績分析

- 売上高：各セグメントにおいて売上高が前年同期を上回り、前年同期比20.9%の増加。
- 営業利益：国内通信事業及び医療・美容事業などが増益になったことにより、前年同期比32.7%の増加。
- 経常利益：営業利益の増加により、前年同期比43.9%の増加。
- 親会社株主に帰属する当期純利益：経常利益の増加により、前年同期比32.1%の増加。

■海外通信事業

	2021/3	2Q累計	2022/3	2Q累計	前年同期比	(単位：百万円)
売上高	755		950		195 (+25.8%)	
営業利益	265		183		▲82 (▲30.9%)	
営業利益率	35.2%		19.3%		—	

C2C回線の新規契約案件が順調に積み上げてきており前年同期比増収となる。

(ご参考) 2022年3月期 第1四半期、第2四半期の推移

	2022/3	1Q	2022/3	2Q	1Q比	(単位：百万円)
売上高	382		568		186 (+48.7%)	
営業利益	43		139		95 (+217.5%)	
営業利益率	11.5%		24.6%		—	

2022年3月期第2四半期は、第1四半期に比べ、C2C回線の提供拡大により増収・増益となる。今後の海外通信事業は、C2C回線提供の積み上げに加え、昨年第3四半期計上案件の5年にわたる売上計上や毎年急増しているフィリピンの通信トラフィックに応じて追加されるキャリアズキャリア案件の売上が計上される見込。

■ フィリピン国内通信事業

	2021/3	2Q累計	2022/3	2Q累計	前年同期比	(単位：百万円)
売上高	480		562		82 (+17.2%)	
営業利益	77		131		54 (+69.9%)	
営業利益率	16.1%		23.3%		-	

フィリピンにおけるコロナウイルス感染症の蔓延により法人向けインターネット接続サービスの新規契約が低調に推移するものの、C2C回線関係の売上計上などにより、増収・増益となる。

■ 国内通信事業

	2021/3	2Q累計	2022/3	2Q累計	前年同期比	(単位：百万円)
売上高	1,878		2,024		145 (+7.8%)	
営業利益	287		365		77 (+27.0%)	
営業利益率	15.3%		18.0%		-	

AmeyoJ及び秒課金サービスを組み合わせたコールセンターソリューションサービスが引き続き伸長し、採算性も向上し、増収・増益となる。

セグメント別実績



■医療・美容事業

	2021/3	2Q累計	2022/3	2Q累計	前年同期比	(単位：百万円)
売上高	213		522		308 (+144.0%)	
営業利益	23		156		132 (+574.2%)	
営業利益率	10.8%		29.9%		-	

コロナウイルス感染症対策を強化し、安全な運営を徹底することにより、ボニファシオグローバルシティに開設した第3院を中心にレーシックの提供が引き続き拡大し、大幅に増収・増益となる。

■その他（旧 在留フィリピン人関連事業）

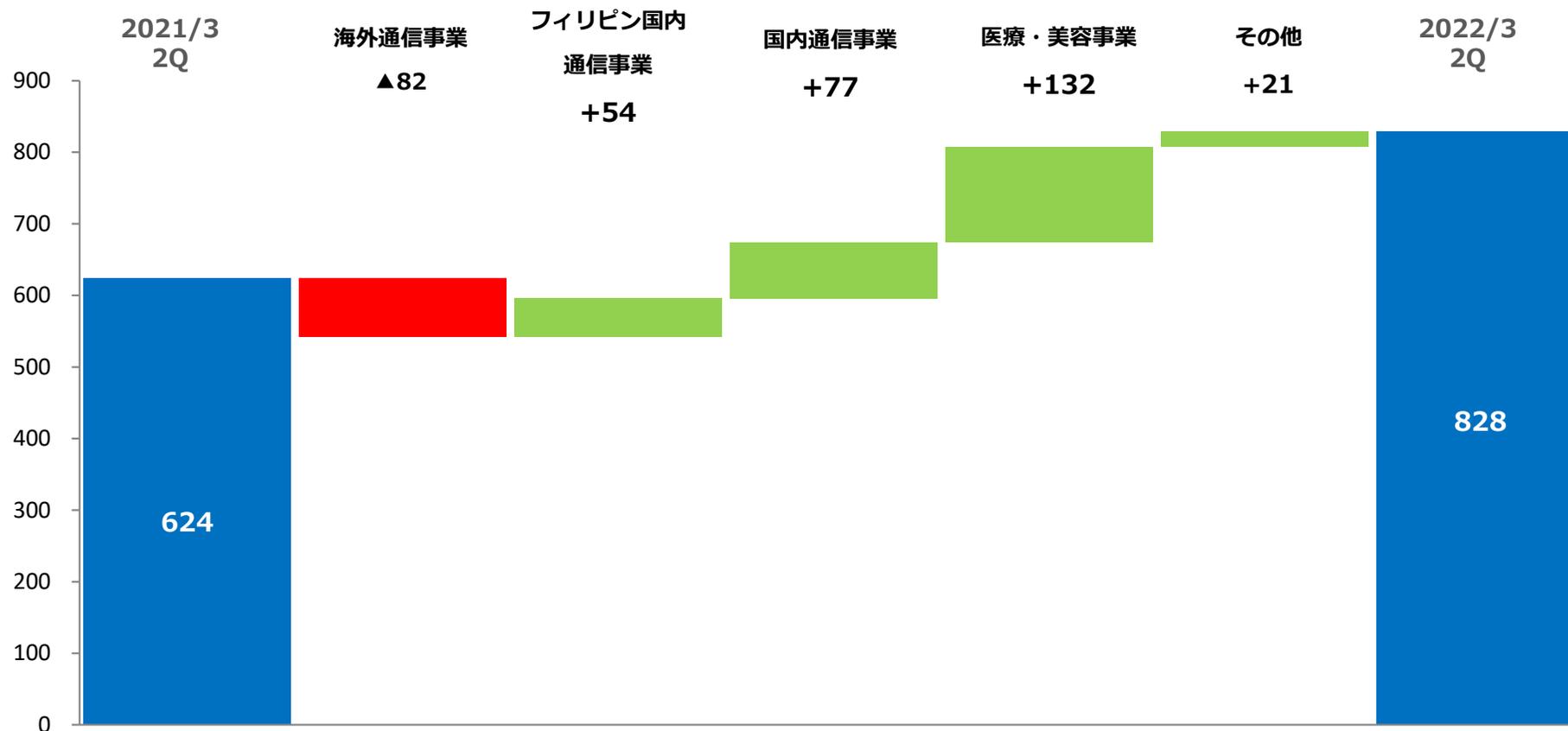
営業	2021/3	2Q累計	2022/3	2Q累計	前年同期比	(単位：百万円)
売上高	44		16		▲28 (▲62.9%)	
営業利益	▲29		▲7		21 (▲74.1%)	
利益率	-		-		-	

2021年1月に、人材関連事業から撤退したことにより、規模が縮小したことにより第1四半期より報告セグメントから除外。フィリピンのコールセンターから送金斡旋などの勧誘を実施するも低水準となる。

営業利益増減（前年同期比）



フィリピン国内通信事業、国内通信事業及び医療・美容事業が増益に寄与



連結貸借対照表 (サマリー)

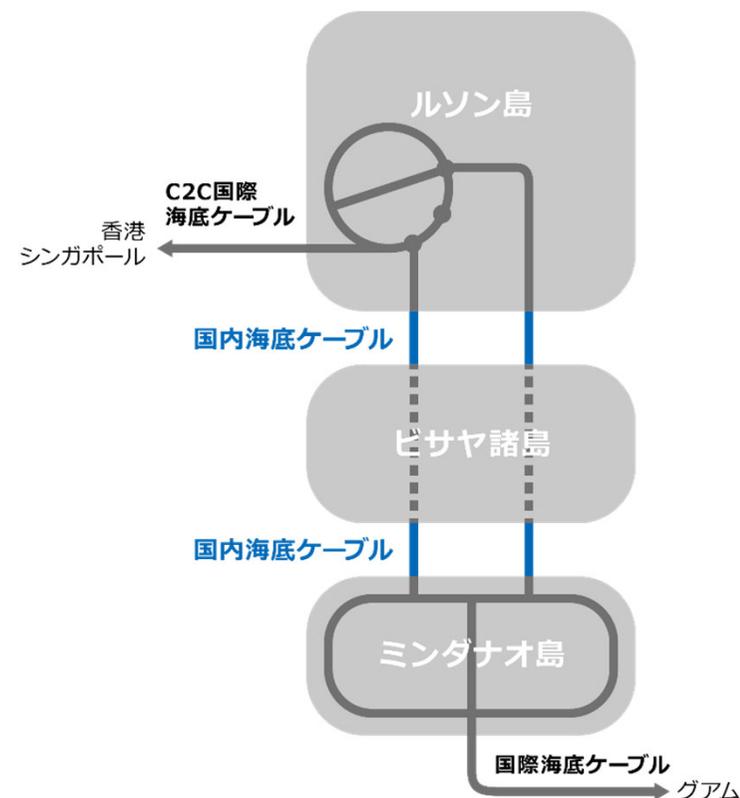
(単位：百万円)

資産の部				負債・純資産の部			
	2021年3月期末	2022年3月期 2Q末	増減		2021年3月期末	2022年3月期 2Q末	増減
流動資産	7,665	8,152	486	流動負債	3,361	3,878	516
現金及び預金	3,625	3,234	▲ 391	買掛金	701	522	▲ 179
売掛金	1,091	1,332	241	借入金	518	573	55
リース投資資産	2,327	2,737	409	その他	2,141	2,782	641
その他	620	847	226	固定負債	1,645	1,722	77
				長期借入金	1,431	1,486	54
				その他	214	236	22
固定資産	4,096	4,951	855	負債合計	5,007	5,601	593
有形固定資産	2,510	3,318	808	純資産	6,754	7,503	748
無形固定資産	829	931	102	株主資本	5,332	5,739	406
投資その他資産	755	701	▲ 54	累積包括利益	▲ 26	139	166
				新株予約権	210	207	▲ 3
				非支配株主持分	1,238	1,417	178
資産合計	11,762	13,104	1,341	負債・純資産合計	11,762	13,104	1,341

2 | 2022年3月期第2四半期 Topics

フィリピン国内での海底ケーブルについて

- 当社子会社のInfiniVAN, Inc.は、フィリピン国内の通信事業者2社と共同で国内の海底ケーブルシステムの建設を計画し、海洋調査を実施中です。新型コロナウイルス感染症の影響を受けているものの、ほぼ計画通りの進捗状況で、2022年末の敷設完成を目指し、協議中です。
- この敷設により、ルソン島からビサヤ諸島、ミンダナオ島を結ぶフィリピン国内を貫通するバックボーン回線を所有することができます。また、このバックボーン回線と、別途構築しているミンダナオ島やパナイ島の回線などを繋ぐことにより、当社グループの提供サービスのフィリピン国内での人口カバー率は96%に達する見込みです。
- このバックボーン回線の敷設により、これまでC2C回線の提供が難しかった地方のCATV事業者や通信事業者にもサービスの提供できることになることから、さらなる事業拡大を図ることが可能になります。



使用中の海洋調査船



イメージ図

- 2021年10月、当社フィリピン子会社のInfiniVANが、米国で5G mmWave（ミリ波）技術によるインターネットアクセスサービスを提供するWeLink Communications, Inc（WeLink）と、フィリピンにおける次世代無線テクノロジー展開のための共同開発（業務提携）に合意しました。
- 法人ならびに個人向けの、有線と無線、5Gと4Gの併用を視野にいた、快適な通信サービスの提供を構想しております。
- InfiniVANは、2017年の事業開始以降、マニラ首都圏の特に経済集積地での光ファイバー網の敷設を実施しております。
- 2019年6月、続いて2020年1月に、5G専用の周波数帯の割り当てを受け、2021年2月には、5Gサービスの提供のために必要不可欠な4Gの周波数帯の割当を新たに受けております。
- 現在、マニラ首都圏の商業地域などにおいて、WeLinkの技術も盛り込んだ実証実験を開始したく、許可の取得や機器の輸入などの準備を急いでおります。

日本の国内通信事業では、コールセンター事業者など向けの、自動架電や顧客管理を統合するシステム（AmeyoJ）と、格安通話料金サービス（秒課金フリーダイヤルサービス）をパッケージした、トータルソリューションが引き続き好調に推移しております。



- AmeyoJは、他社のシステムと連携するAPIを圧倒的に多く持ち、早期導入が可能。
- このAmeyoJに、秒単位で課金するフリーダイヤルサービスを組み合わせ、営業とエンジニアが一体となって最適なプランをコンサルティング提案することにより、新規顧客の開拓を拡大してまいります。

- フィリピンでの新型コロナウイルス感染症の影響が続き、一時ロックダウンなどの外出制限が強化されるなど厳しい環境下におけるオペレーションを確立し、顧客やスタッフの安全を第一にした運営を徹底することにより、昨年ボニファシオグローバルシティ（BGC）に開院した眼科専用の第3院を中心にレーシック施術が回復しております。
- 今後の拡大に向け、日本の画像診断を使った予防医療としての人間ドックセンターの開設を検討中。



エントランス



受付



待合室

※写真はすべてBGC院

会社名
(英文社名)

株式会社アイ・ピー・エス
IPS, Inc.

設 立

1991年10月

本社所在地

〒104-0045 東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル8階

事業内容

海外通信事業：フィリピンのCATV事業者等に国際通信回線を提供

フィリピン国内通信事業：フィリピン国内での法人向けISPの提供

国内通信事業：日本国内での通信サービスの提供

医療・美容事業：フィリピンでの医療・美容サービスの提供

グループ企業

連結子会社

KEYSQUARE INC.

Shinagawa Lasik & Aesthetics Center Corporation

InfiniVAN, Inc.

ISMO Pte. Ltd.

- ▶ 本書には、当社に関連する見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。これらの将来の見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により実際の業績が本書の記載と著しく異なる可能性があります。
- ▶ 別段の記載がない限り、本書に記載されている財務データは日本において一般に認められている会計原則に従って表示されています。
- ▶ 当社は、将来の事象などの発生にかかわらず、既に行っております今後の見通しに関する発表等につき、開示規則により求められる場合を除き、必ずしも修正するとは限りません。
- ▶ 当社以外の会社に関する情報は、一般に公知の情報に依拠しています。

《IRに関するお問い合わせ先》

株式会社 アイ・ピー・エス

〒104-0045 東京都中央区築地4-1-1
東劇ビル8階

TEL: 03-3549-7719 FAX: 03-3545-7331